

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 17 日 (2008.1.17)

【公開番号】特開 2006-160925 (P2006-160925A)
 【公開日】平成 18 年 6 月 22 日 (2006.6.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-024
 【出願番号】特願 2004-355919 (P2004-355919)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 51/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 51/00

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 28 日 (2007.11.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 脂肪族ポリエステルと (B) 粒子径 10 μ m 以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体および (C) 多層構造重合体を含有することを特徴とする脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 2】

(C) 多層構造重合体が、少なくとも一種のエポキシ基含有ビニル系単量体を含有する重合体により構成されることを特徴とする請求項 1 記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 3】

(C) 多層構造重合体のゴム層が、ポリオルガノシロキサングムとポリアルキル (メタ) アクリレートゴムとからなる複合ゴムを主成分とすることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 4】

(C) 多層構造重合体のゴム層が、ポリブタジエンを主成分とすることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 5】

(C) 多層構造重合体のゴム層が、アクリルゴムを主成分とすることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 6】

(A) 脂肪族ポリエステルが、ポリ乳酸であることを特徴とする請求項 1 ~ 請求項 5 いずれか 1 項に記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 請求項 6 いずれか 1 項に記載の脂肪族ポリエステル樹脂組成物を成形してなる成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明者らは、上記課題を解決するため鋭意研究を行ったところ、脂肪族ポリエステルに特定の粒子径を有するポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体との混合粉体および多層構造重合体を用いることにより、耐衝撃性、耐熱性、特に低温時の耐衝撃性に優れ、かつ成形加工性のよい脂肪族ポリエステル樹脂組成物の開発に成功した。

すなわち、

本発明は、(A)脂肪族ポリエステルと(B)粒子径10μm以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体および(C)多層構造重合体とを含有する脂肪族ポリエステル樹脂組成物を提供するものである。

また、本発明は、上記(C)多層構造重合体のゴム層が、ポリオルガノシロキサンゴムとポリアルキル(メタ)アクリレートゴムとからなる複合ゴム、ポリブタジエンあるいはアクリルゴムをそれぞれ主成分とするものからなる脂肪族ポリエステル樹脂組成物を提供するものである。

また、本発明は、上記(A)脂肪族ポリエステルが、ポリ乳酸である脂肪族ポリエステル樹脂組成物を提供するものである。

さらには、本発明は、上記脂肪族ポリエステル樹脂組成物を成形してなる成形品を提供するものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によれば、(A)脂肪族ポリエステルと(B)粒子径10μm以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体および(C)多層構造重合体を用いることにより、耐衝撃性に優れる脂肪族ポリエステル樹脂組成物およびそれらからなる成形品を提供することができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

表3から明らかなように、実施例1～13の本発明の脂肪族ポリエステル樹脂組成物は、耐衝撃性に優れているほか、弾性率が高く、成形外観も良好であった。一方、比較例1～3の樹脂組成物は、弾性率が低く、衝撃強度が不足しており、耐熱性、成形外観においても劣っている。